

令和5年度第1回福岡市スポーツ推進審議会 議事録

<開催日時> 令和6年3月22日（金） 13:00～ 13:45

<開催場所> 福岡市役所15階 研修室B

<出席委員> 9名（欠席5名）

見野 由美子 委員、齋藤 光子 委員、工藤 麻子 委員、
西村 秀樹 委員、兄井 彰 委員、藤井 雅人 委員、
早瀬 仁美 委員（会長）、吉川 勝弘 委員、堀江 耕一 委員

<説明のため出席した事務局職員> 7名

重岡スポーツ推進部長、
平山スポーツ推進課長、中村スポーツ施設課長、
後藤スポーツ事業課長、米倉市民局課長※世界水泳担当
ほか2名

<議題及び報告事項>

○ 議題

- （1）福岡市スポーツ推進審議会 会長、副会長の選任について
- （2）令和6年度当初予算案におけるスポーツ振興関連団体への補助金（案）について

○ 報告

- （1）福岡市スポーツ推進計画の取組みについて
- （2）令和6年度スポーツ振興にかかる主な事業について

<協議要旨>

○ 開会

（事務局）

- ・本日の出席委員数は、全14名のうち、9名で、委員の過半数を超えているため、福岡市スポーツ推進審議会条例第7条の規定に基づき、本日の会議が成立することを報告する。

○ 議題

- （1）福岡市スポーツ推進審議会 会長、副会長の選任について

(事務局)

- ・本会議の運営にあたり、福岡市スポーツ推進審議会条例第6条により、会長・副会長を各1名、委員の互選により選出する。特に意見がないようであれば、事務局案を提示させていただきたいと思うがどうか。

(各委員)

- ・意見等なし

(事務局)

- ・では、事務局から会長に早淵委員、副会長に齋藤委員を提案させていただく。

(各委員)

- ・異議なし

(事務局)

- ・会長に早淵委員、副会長に齋藤委員を選出することに決定した。ここからの進行は早淵会長に願います。

○ 議題

(2) 令和6年度当初予算案におけるスポーツ振興関連団体への補助金(案)について

(会 長)

- ・事務局から説明をお願いします。

(事務局)

- ・資料1に沿って説明

(会 長)

- ・説明について、ご意見、ご質問等がある委員は挙手のうえ、発言をお願いします。

(委 員)

- ・スポーツ推進委員の資質向上と活動促進のための補助とあるが、具体的には講習会など行っているのか。

(事務局)

- ・市主催の研修に加え、スポーツ推進委員で構成する協議会主催の研修や講習会などを行っていただいている。また、地域の身近なスポーツ活動から、福岡マ

ラソンや福岡国際マラソンなどの全市的なスポーツ大会まで、幅広くご尽力いただいている。

(会 長)

- ・他にご意見等ないか。議題については以上とする。

○ 報告

(1) 福岡市スポーツ推進計画の取組みについて

(2) 令和6年度スポーツ振興にかかる主な事業について

(会 長)

- ・事務局から説明をお願いします。

(事務局)

- ・資料2、3に沿って説明。

(会 長)

- ・説明について、ご意見、ご質問等がある委員は挙手のうえ、発言をお願いします。

(委 員)

- ・学校部活動の地域移行については、スポーツ推進計画の取組みの枠外ということで、資料に記載がないのか。

(事務局)

- ・資料には特に記載していないが、教育委員会において、休日部活動のモデル事業を実施している。市においては、生徒数が減少傾向にないこと等を踏まえ、当面は部活動指導員、支援員など外部人材の活用により充実を図るよう取組みを進めている。
- ・将来的な人口減少を見据えながら、全国的な取組みを注視し、市にとって一番良いあり方を検討していくことになると考えている。

(委 員)

- ・関連学会等で部活動の地域移行は、子どものスポーツ環境の改善よりも教員の働き方改革に重点がおかれている状況があるのではないかと議論になることもあるのだが、子どものスポーツのためと教員の働き改革のどちらも必要だと思う。市の認識はどうか。

(事務局)

- ・部活動によって大きな負担が生じている教員の働き方改革を進める必要があること、子どもが減少し、一つの学校ではチームが組めない、大会が成立しないといった状況が見込まれる中で、いかに子どもたちのスポーツができる環境を確保していくか、という2つの課題があり、両面から検討していく必要があると考えている。

(委員)

- ・福岡大学において城南区の中学校と部活動の地域移行にかかるプロジェクトを行っており、アンケート調査の分析を担当していた。参加した中学生からも、部活動顧問からも大変肯定的な評価が得られた。今後、このような大学等の取組みも視野に入れていただければと思う。

(委員)

- ・スポーツ体験ランドなど子どものスポーツきっかけづくり事業全般について、どの程度効果を発揮しているのか把握することは大事だと思う。事業の参加者数だけでなく、どのようなきっかけになっているのかなど、深掘りした効果検証に基づき事業を展開することで、その効果が高まると思うので検討いただければと思う。

(事務局)

- ・スポーツ体験ランドについては、令和4年度から開始しており、各回定員を超える応募をいただいている。参加者にはアンケート調査を実施しており、令和4年度の参加人数は1,130人に対し、700人程度から回答をいただいたのだが、総合満足度が5点中4点以上の回答が94%以上、今後も継続してスポーツを実施したい子どもが95%以上、子どもに継続してスポーツをやりたい保護者が99%という結果であった。
- ・今後、子どもたちが継続してスポーツを行うためにはどういったことが必要かという質問に対し、一番が「体験型イベント」、次が「クラブ等の体験機会」、次が「地域クラブ等の情報」という順番であった。市としても限られた人材、資源でイベントを行うなかで、アンケートの結果等を踏まえ、体験型のイベントは継続するとともに、情報発信についても検討していきたいと考えている。

(会長)

- ・以上で、議題2件と報告事項2件がすべて終了した。最後に、全体を通して、あるいは、本日の議事にかかわらず、ご意見、ご質問や感想、所属されている団体の課題等、何かあれば挙手のうえ、発言をお願いする。

(会 長)

- ・公民館のスポーツの実施状況等はいかがか。

(委 員)

- ・いきいき学級の各所での開催や、地域の自治協議会と共催した取組みなどを行っている。

(会 長)

- ・公民館で体を動かす活動などに協力いただいている団体もあると思うが、コロナ前、コロナ下との状況の変化についてどう感じているか。

(委 員)

- ・コロナ下よりもイベント実施時の参加者が増えている。また、定員を設けて事前申込制としていたものを、参加自由で実施している。参加者からは、無料で子どものスポーツをする機会を設けたことへの感謝の言葉をいただいております、改めて、楽しみながら、遊びを通してスポーツをする機会をつくることは大切だと感じた。

(委 員)

- ・制限緩和以降、体育館の利用者は大幅に増えており、企画したスポーツ教室について、定員 30 人に対して 200 人弱の応募をいただいている状況。制限がなくなったことにより、トレーニング室などの利用者も増えている。

(会 長)

- ・事務局で他に聞いていることなどないか。

(事務局)

- ・コロナの話があったが、5類に移行してから、大会、イベントなど、スポーツをする場や機会は増えており、市において、年に1回市民の意識調査を行っているが、令和4年度と比較して、スポーツをする場や機会があると思う人の割合は増加している。しかしながら、スポーツを週1回以上行っている人の割合やウォーキングを1日30分以上実施している人の割合は減少していた。
- ・理由の分析は難しいが、コロナ下においては、ウォーキングなど体を動かすことへの意識の高まりがあったが、令和5年度は、スポーツ以外の様々な活動も実施できるようになり、相対的にウォーキングなどの活動が減少したといった状況もあるのではと考えている。
- ・子どもの体力についても、コロナ前よりも低下している。

(委員)

- ・コロナが5類に移行してから、スポーツ観戦やスポーツ実施者は、肌感覚では増えていると思う。様々なレジャー活動ができるようになったなかで、スポーツがどの程度の役割・意義を持っているのか、飛躍的に増えていることはないと思うが、せっかくの機運をスポーツ活動に繋げるきっかけ、仕掛けをつくっていくことが必要だと思う。
- ・子どもたちの体験型イベントは一過性の楽しさも大事だと思うが、競技に限らず遊びを含めて継続的な運動・スポーツの実施に繋がるようなきっかけづくりと、その効果検証ができると良いと思う。

(会長)

- ・他に意見等ないか。

(各委員)

- ・なし

(会長)

- ・これをもって本日の審議会を終了する。

○ 会議終了